

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった!」「役に立った!」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷養護学校の取り組みを多くの方に知ってもらうためのおたよりです。

## ～まっちゃんの今月のつぶやき～ 「その行動には意味がある」

行動を考える時に「なぜ、そうするのか?」と理由を考えることはよくありますが、  
**その行動をしたことで「何かもたらされた(得られた)のか?」**を考えるのが  
『**応用行動分析**』といわれているものです。

**子どもの不適応行動は、その子のことばである** と言った人がいました。

不適応を起こす原因にはいろいろなことが考えられますが、

**その行動が起きる前と起きたあとのことを記録する**ことで、

その子は**何が目的でその行動を起こしたのか**が見えてくることがあります。

注目を引くため?

嫌なことから逃れるため?

やりたいことやほしいものを要求するため?

自己刺激からくるもの?

感覚的なことが要因?

これらを特定し、その行動の持つ意味を読み取ることで、

「あー、そうだったのか」と思うところからが、実は対応のスタートなのだと思います。

今月号は自立活動教諭(作業療法士)の視点からも行動についてお伝えしています。

ぜひ、ご一読ください!

(教育支援チーム)

## ～お知らせ～

瀬谷養護学校ホームページ内「教材教具集・教育支援だより」のサイトより  
教育支援だよりのバックナンバーをご覧いただくことができます。



## (大人から見て) 困った行動の裏にある、こどもの困りごとに目を向ける

自立活動教諭 (作業療法士)

こどもの行動の理由を考える時に、周りの状況をどうとらえているか (認知の力)、自分の言いたいことが伝えられているか (コミュニケーションの力)、を考える必要がありますが、もう一つ感覚の処理の特徴を知ることが大事な視点です。今回は感覚についてお話しします。

「**感覚**」は人によって感じ方は様々ですが、なかなか他の人がどう感じているかを知ることは難しいものです。なので、人知れずつらい思いをしていることがあります。例えば、ニキリンコさんは著書の中でシャワーは針が刺さるように痛いと感じる。コタツに入ると足がなくなる (自分の体は見えなくなると感じない) などと表現されています。

作業療法士は感覚統合療法の考え方をを用いて、感覚について分析します。感覚というと、味覚、聴覚、視覚、嗅覚、触覚が一般的ですが、そこに前庭感覚 (揺れを感知する感覚) 固有受容覚 (筋肉の張りを感知する感覚。ニキさんがコタツで足がなくなることに関係) を加えて考えます。また感じやすさと対処行動別に4タイプに分けて考えます。

感覚を感じすぎて辛い思いをしているタイプを「**感覚過敏**」。感じやすくて辛いために、先回りして拒否をする、防衛的に攻撃をするタイプを「**感覚回避**」。感覚が感じにくく、ぼーっとしたり、身体がふにゃふにゃしたりして思うように身体が動かないタイプを「**低登録**」。

感覚が感じにくいために自分で感覚を作り出す (動き回る、物を触る、口に入れるなど) タイプの「**感覚探求**」と分けられます。

感覚の問題があると、通所の生活でもストレスがたまっていきます。時に情緒は乱れ (大人からすると) 困った行動になることがあります。でも、その子は困っているのです。感覚の視点をもって行動観察やアセスメントを行い、分析結果より環境調整や活動の工夫といった支援をすることで生活しやすくなり、困った行動の軽減につながる場合があります。ぜひ、行動の理由を考える時には感覚の視点もいれて考えてみてください。子どもの困っていることが見えてくるかもしれません。 ▶参考: ニキリンコ著 『自閉っ子、こういう風にできています!』花風社